

職員が生き生きと働くために職場ができること

Ask What Your Office Can Do for Your Work-Life Balance; Ask Also What You Can Do

阿澄玲子 Reiko AZUMI

そもそも仕事と私事はどの程度分けて考えられるもののでしょうか。給料をもらっている以上、仕事と私事をそれなりに分離するのは当然のことではありませんし、職場ではプライベートを見せずに働くのも格好いいようにも思えますが、職員の私事に関して職場が世話を焼いたほうがその職員の仕事の効率が上がるとすれば、それは職場にとってもいいことなのではないのか？ ならば、そんなに遠慮しないで職場に世話を焼いてもらえばいいのかもしれませんが。

というよりも、職場はすでに結構私事に介入してきています。昔からある扶養手当や職場での健康診断、税金の源泉徴収なども、よく考えたら私事(家族を養う、健康、国民としての義務)にあたるものとも言えるのに、職場がまとめて面倒を見てくれることで、職員は面倒な手続きや心配から解放され、その分仕事で力を発揮できるようになっているのです。裏を返せば、職員が無駄なことに頭を悩ませないようにして、こき使うためのシステムとも言えます。ワーク・ライフバランスを考えるのが大事であるという考え方が浸透してきた昨今、職員の働きやすさを向上させるために、これまで以上に職場ができることがありそうです。本稿では、このコラムのお題である男女共同参画に関連した、筆者の職場である独立行政法人産業技術総合研究所(以下産総研)の取組みについて御紹介いたします。

産総研は、一時預かり保育所「プチチェリー」を2001年につくば地区に開設しました。これは、普段は家庭や市内の保育所などで保育されている子供を、軽微な病気や怪我、保育者の不在や病気などの理由で一時的に保育できないときに、親である職員が仕事を休まなくてもよいように利用してもらうものです(本人負担あり)。大学病院付設の保育所などを除けば、全国の公的機関としてはかなり先駆的な取組みであったと思います。学校の長期休暇期間などには小学生も預かります。厚生担当者の熱意も手伝って、開設以来、

毎日10名前後の子供が利用しています。ちなみに産総研は圧倒的に男性職員が多い職場ですので、利用者の半分以上が男性職員とのことです。後年には、つくば以外の事業所でも同等のサービスが受けられるように、保育室の設置や、ベビーシッター利用の制度を設けました。小さい事業所で毎日預かる子供がいない場合でも、保育に適した部屋だけ準備しておいて必要なときに地元の企業からシッターを派遣してもらっています。さらに、出張した際現地でベビーシッター利用もできるようになっています。

また、産総研のイントラネットシステムのなかには、「子育て掲示板」および「介護掲示板」があり、地域の子育て事情などの情報交換ができるようになっています。所内で受けられるさまざまなカウンセリングでは、その人の「キャリア」を考える際、家庭生活も含めたものと捉えているため、家庭の悩みなども相談できます。

結婚して戸籍上の姓が変わるのは私事かもしれませんが、氏名は仕事でも使います。産総研では、2001年の独立行政法人化にともない、それまでの旧姓使用システムを拡充し、紙1枚出すことによって職場で広範囲に旧姓を使用できるようになりました。

上述のさまざまなサービスは、職員の手間を省いて便利にしてくれているだけでなく、むしろ心配事を減らすというメンタルなサポートの効果があるように思っています。普段やりなれないことを考えないとならないときにはどうしてもストレスがたまりませんが、職場のシステムで簡単に情報収集できたりスムーズに解決できたりすればストレスが軽減でき、楽しく仕事ができます。もちろん、楽にもらった分、がんばって職場に貢献することを忘れてはならないと思います。ちなみにこういったシステムを工夫して作っていくのは職員自身ですので、いわば助け合いです。小さなことでもいいので、自分も他人も楽にするために、職場の環境改善を積極的に提案していきましょう。



阿澄玲子 Reiko AZUMI

(独)産業技術総合研究所光技術研究部門
分子薄膜グループ
グループ長、博士(工学)

京都大学工学研究科分子工学専攻修士課程修了
E-mail: reiko.azumi@aist.go.jp